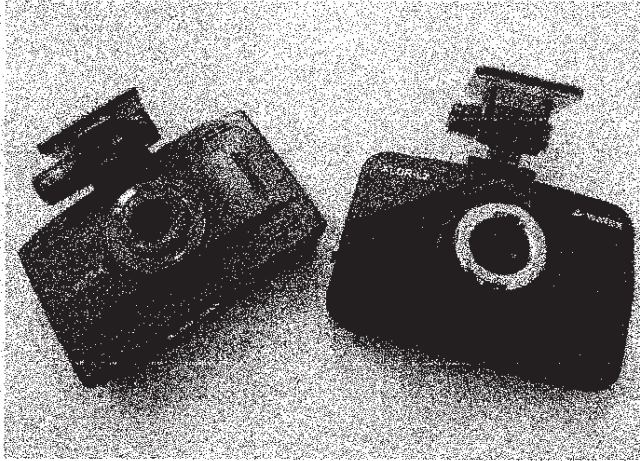


安全運転支援機能を強化

長時間録画、後方車両録画も

ドライブレコーダーの新機種発売 ワーテックス



「XLDR-L2」の後継機の「XLDR-ADAS」

ドライブレコーダー「XLDR-ADAS」を発売し、衝突警報装置等の開発・製造・販売を行うワーテックス(太田市強戸町162-13、安俊興社長)は、このほど、ドライブレコーダーの新機種「XLDR-ADAS」を発売した。安全な運転をサポートするADAS(安全運転支援機能)や駐車中の長時間録画などの機能を搭載したもので、初年度

5万台の販売を目指している。ADASとはアドバンスド・ドライバ・アシスタンス・システムの略で事故などの可能性を事前に検知して回避する仕組み。同社のADAS機能は走行中のカメラ映像をリアルタイムで解析することで前方車と車線を検出し、GPSデータにより自車の速度を照らし、危険を知らせる。時速40km以上で走行中に車線からはみ出した

り、前方の車との距離が30m以下になった時に警告音で知らせる「車線逸脱警告」や「前方車発進警報」などがある。昨年4月には同機能を搭載した衝突警報装置「XLAS-303」を販売し、ディーラーや部

品商社などの販売代理店を通して、トラックやバスの運送事業者を中心に販売、利用され好評を得ている。今回、発売した「XLDR-ADAS」では、品商社などの販売代理店を通して、トラックやバスの運送事業者を中心に販売、利用され好評を得ている。今回、発売した「XLDR-ADAS」では、品商社などの販売代理店を通して、トラックやバスの運送事業者を中心に販売、利用され好評を得ている。

価格が2万9800円から3万9800円(税別、取付工賃別)で、ディーラーのオプション商品として販売するほか、カー用品店からの引き合いもあるという。安社長は「安心や安全に対するドライバーの意識は、年々増加していると感じる。今後も安全な車社会実現のために役立つ製品作りを目指していく」と話している。(岡田健太)

ADAS機能のほかに車上荒らしなどの対策として、駐車中の長時間録画を可能とした。電源は配線タイプがシガータイプの2種類があり、配線電源をバッテリーに接続することで、エンジン停止後も録画できる。駐車録画中は「動体を検知した時」、「衝撃を感じた時」のみを録画する標準設定か、常に録画する長時間設定が選べ、エンジンを切ってから1時間、4時間、12時間、24時間を選択できる。駐車モード中は常に車両の電圧を監視しているため、車両の電圧が設定値以下になると自動的に本体の電源が切れ、バッテリー上がりを防ぐことができる。そのほか、サブカメラを接続することで後部座席や車外の後方車両録画もでき、当て逃げ対策や社会問題化している、あたり運転の対策にもなる。

価格が2万9800円から3万9800円(税別、取付工賃別)で、ディーラーのオプション商品として販売するほか、カー用品店からの引き合いもあるという。安社長は「安心や安全に対するドライバーの意識は、年々増加していると感じる。今後も安全な車社会実現のために役立つ製品作りを目指していく」と話している。(岡田健太)